

## 青森県生協連 介護保険改定学習会

1. 日 時：2015年2月27日（金）10時45分～14時
2. 場 所：八戸市スポーツ研修センター第2会議室（売市奥遊下2）
3. 参加者：八戸医療生協26名、コープあおもり18名、たすけあいの会6名  
合計50名（申し込み時）

・昨年秋の青森地域での学習会に続き、今年度2回目の開催となりました。今回は①八戸市介護保険課の岩崎郁子さんから「八戸市の介護保険改定についての概要」を、②木島 弘 詞事務長から「コープ福社会（みやぎ生協）の取組について」講演いただきました。

はじめに、八戸の介護保険の現状と改定後の方向性について詳しく報告していただきました。その間に、認知症の「認定調査」の内容の一部を参加者と行いリラックスする場面もありました。講演の中身は、現在と10年後の高齢化率と要介護認定者数の割合、現在の八戸市の介護保険料基本額は4,800円であり、2015年度からの2年間は5,900円を見込んでいて、5～10年後には8～9,000円になるという予測を立てています。2014年度の八戸市の保健給付額は1ヶ月15億3,200万円に上るとのことです。施設の配置については、在宅介護支援センターが12ヶ所、居宅介護支援（市内）事業所75ヶ所（2月1日現在）ありほぼ全域をカバーしています。介護認定は申請日から30日以内に通知することになっているが、さらに時間がかかるケースも発生しています。

・改正後についての八戸市の見直しについては、在宅医療・介護連携の推進、地域ケア会議の推進、介護予防の推進、地域包括支援センターの機能強化等を行うことにしています。行政だけでは賄えない対策として多様な形態（NPO、民間企業、ボランティアなど）でのサービス提供を見直し、在宅サービスの見直し（小規模型の施設拡充等）、施設サービス等を見直し（特養老人ホームの入所を要介護3以上に重点化する等）を上げました。また人材の確保が難しくなっている現状については、離職率を下げる（報酬を上げる、3Kのイメージ払しょく等）、高齢者にも働いていただく、海外からの労働者を受け入れる、女性にも労働力になっていただく等を考えている、このように民間との協力が必要なことを強く話されました。

・午後の講演はみやぎ生協がうまく生協の活動として事業に結び付けている「こーぷ福社会」の木島氏の講演を聞きました。はじめに全国の様子や国の流れを話し、自己負担が増えること、また支える側の人員不足もあり、人材育成が急務で生協も積極的に発言し支える体制を整えることが求められています。そのためには生協資源の「みえる化」を進めること、生活支援コーディネーターの研修を行うことを上げました。

・参加者の感想は、八戸市へは「八戸市の様子が変わってこれから市民としてどのような心構えでいるか理解できました」「国が責任を持ってやるべきこと、税金の使い方が間違っている、市としてあきらめないで国へ注文を付けるべき」、また木島氏へは、「生協の得意分野の活用がさらに重要」「コープくらしサポートガイドブックは八戸でも取り入れてほしい」など、全体では、「引き続きこのような学習の機会を作ってほしい」など、積極的に関わっていきたいという前向きな声が多く寄せられました。



講演の八戸市介護保険課の岩崎さんとこーぷ福社会木島氏、参加者の様子